

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校訓「自律」の精神を培い、知・徳・体のバランスを高め、社会に貢献できる心身ともに健全な清々しい人間を育成する。</p>	<p>①新学習指導要領の理念に対応した主体的・対話的で深い学びの実現及び授業改善による生徒の基礎学力向上 ②特色ある授業や特別活動の実施、部活動の奨励による生徒の「志」の育成と活力ある学校作りの推進 ③3年間を見通したキャリア教育の推進、夢や目標への「志」の育成と進路実現の支援 ④豊かな心を育み心身の健康を増進するための支援体制の充実 ⑤保護者や地域、中学校との連携による広く共感と信頼を得られる学校作りの推進</p>

達成度
 A：ほぼ達成できた
 B：概ね達成できた
 C：やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①新学習指導要領の理念に対応した主体的・対話的で深い学びの実現、授業改善による基礎学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・新学習指導要領に対応した「できる授業」の実践	・新学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びの実現に対応した「できる授業」の授業実践を行う。	・「できる授業」に係る研修会を年1回以上開催する。 ・PDCAサイクルを意識して授業週間や授業研究会を年2回開催し、授業改善に努める。 ・毎時間又は単元終了後に振り返りを行い、生徒の授業満足度80%を目指す。	A	・全職員を対象として4月に「できる授業」研修会を1回、授業研究会や授業研究会を2回設定した。研修会の内容を授業研究会で実践することで、「できる授業」の定着が図られている。授業研究会は、来訪者が年々少なくなっている。 ・授業アンケートから「先生の授業は、分かりやすい」という問いに、「そう思う」「だいたい思う」と答えた生徒が全教科で87%以上であった。	・来訪者の人数を増やし本校の取り組みを知ってもらうために、授業研究会に本校がしやすい期間の設定やPTAとのタイアップなどを推進していく。
	○教職員の指導力向上	・きめ細やかな指導体制の確立 ・ICT機器の利活用推進と効果的な指導方法の研究	・教員同士が協働できる体制作りと本校らしいカリキュラムの構成に努める。 ・ICT機器を効果的に利活用した科目を、年間で10%向上する。	・カリキュラム委員会を月1回以上開催する。 ・アンケートを生徒・保護者・教員を対象として年2回実施する。 ・PDCAサイクルを意識してアンケート結果を基に次年度のカリキュラムの改善に活用する。 ・各教科で、効果的な指導方法の研究を行う。 ・校外のICT研修や公開授業への積極的な参加を促す。 ・ICT通信を発信し、職員・生徒のスキル向上・知識の習得を図る。	A	・カリキュラム委員会を13回開催し、来年度のカリキュラムと新学習指導要領に対応した教育課程を策定した。アンケート結果やカリキュラム委員会の意見を聞きながら改善をしていきたい。 ・ICT通信は10回以上発行し、サーバ更新・新教育情報システムへの移行・電子黒板の更新などが円滑に行われ、授業への影響がなかった。 ・学習用パソコンを利活用した教育における取組目標「タイピング技術の向上」「デジタル教材の活用」では、目標を大きく上回る成果を上げることができた。一方で、学習用PCを忘れる生徒もいた。	・来年度のカリキュラムから次の年度のカリキュラムへのバージョンアップは行わず、新学習指導要領に対応した教育課程の成熟を図る。 ・来年度から新しい学習支援ソフトを導入するため、その機能を理解し、利活用するための研修を行う。 ・生徒が学習用PCを使うために、各教科だけではなく、学年での取り組みなどを検討・実践していく。

②特色ある授業や特別活動の実施、部活動の奨励による生徒の「志」の育成と活力ある学校作りの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	・特別活動の充実 ・部活動の奨励と充実	・佐賀への愛着を育み、よりよい人間関係を築く態度を育成する。 ・部活動実施状況を正確に把握する。 ・目標達成への努力や達成感による自己実現できる目標の整備を行う。 ・部活動として、挨拶やフェアプレー精神、道具を大切にすることなど人間力の育成を図る。	・佐賀語りの利用や佐賀に纏わる講演会の実施を通して佐賀への愛着心を育てる。 ・グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを意識して授業を実施する。 ・部活動計画及び実績報告を確実に提出する。 ・活動報告等を利用して、個人の参加を把握する。 ・大会日程、結果等の情報を積極的に発信する。 ・各部長と定期的な連絡会を実施し、部活動の活性化に繋げる。	B	・身近な講演者に依頼することで、太良町の魅力や高校時代に考えていたことなどを題材に話があり、佐賀だからできることを感じてもらえた。 ・部活動計画及び実績報告は確実に提出することができた。しかし、個人の参加状況を把握することはできなかった。 ・大会の結果は、HOT通信を通じて生徒・保護者・近隣中学校まで発信することができた。	・実績報告書を見直したり、部長会議等を行ったり、参加状況や大会日程、結果が把握出来るようにしていく。 ・部活動のあり方・活動内容を再検証し、活動の効率化・実質化を進めることにより、学校全体の活性化に繋げていく。
	○グローバルな人材の育成	・体験的な学習活動の充実 ・国際交流事業の推進	・「体験授業」や「郷土学習」などの授業を通して、郷土に対する愛着を育み、コミュニケーション能力を育成する。 ・台湾との国際交流事業の実施を通して、国際感覚を身につけるとともに多文化理解の態度を養う。	・地元企業や農家での「体験授業」を通して、働くことの意義やコミュニケーションの大切さを学び、「郷土学習」においては、地域の歴史に触れることで学校がある地元への愛着心を育てる。 ・事前授業など周到な準備を行い、積極的な態度で交流に参加する。 ・報告会を実施し、国際交流を通して学んだことやコミュニケーションを図ることの大切さを全生徒へ伝える。	A	・「奉仕活動」では多良町の清掃や保育園訪問を行い、地元への愛着心を深めることができた。「郷土学習」では、町内の歴史的遺跡や観光名所を巡り、地域への愛着心を育んだ。「体験活動」では、各事業所に出向いて就業体験を行い、働くことの意義を学んだが、事業所によって体験内容の程度に大きな差があった。 ・国際交流において、事前指導では中国語の勉強や視察研修の学習を行うことができたため、積極的な交流に繋がった。また、事後指導を行った後、全校生徒へ報告会を行うことができた。 ・県の国際交流成果発表会においても代表校として発表を行うことができた。	・年度当初に昨年度担当者との引継ぎを綿密に行い、計画を立て、校外活動の機会をより増やしたり、他の授業と連携を図ったりして、地域へ貢献する。また、体験先事業所との連携を深め、生徒が仕事に携わる機会を増やす。 ・中国語学習を増やし、より積極的に交流ができる環境を作るよう事前学習から報告会までを計画していく。

③3年間を見通したキャリア教育の推進、夢や目標への「志」の育成と進路実現の支援

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育の推進	・進路指導のマッチング ・進路希望の実現	・進路啓発研修や進路講話を適切な時期に実施する。 ・生徒の希望と適性に応じた進路指導を行い、就職内定・進学合格の100%を目指す。	・各学年に応じた進路啓発研修や講話を年1回実施する。 ・各学年に年2回進路希望調査を実施する。 ・企業のPRシートやパンフレットを閲覧し易くするための進路資料室内のレイアウトを工夫する。 ・3年生と進路面談を6月までに全員に実施し、生徒の進路動向を把握し、就職(福祉的就労)、進学希望者に必要な情報提供を随時行う。	B	・学年と連携して進路啓発研修やインターンシップの事前指導や先輩による講話を実施できたが、3月に実施を予定していた職業理解講座と会社紹介会は臨時休校により実施できなかった。 ・外部機関との連携が必要な生徒については各機関と連携を随時行い、適切な時期に適切な情報を提供することができた。 ・大学進学希望者に対して個別指導を計画、実施することができた。	・進路行事の見直しと実施時期を検討したい。 ・外部機関との連携をさらに深め、進路先を確保するために積極的に会社開拓を行う。 ・県内就職先を確保するために会社訪問をさらに実施して本校への求人をお願いしたい。 ・大学入共進会などに対応するために研修や情報交換会を計画・実施して職員間の共通理解を深め教科指導等に生かす。
教育活動	○通級指導の実践	・自立活動の理解と実践 ・計画的な情報発信の実践	・自立活動に関する基礎知識について、全職員の90%の周知率を目指す。 ・校外で2回以上の事例発表、内容紹介などの機会を設定し、通級指導について情報発信する。 ・自立活動担当職員の実践力を向上させ、自立活動選択者の授業満足度90%をめざす。	・毎月1回以上の通級指導委員会を開き、授業内容や生徒の変化を共有する。 ・全職員向けの研修会を年に最低1回は行う。 ・校外からの依頼に積極的に応じることで発信の機会を確保する。 ・文科省の研修や県内の通級担当者会議への参加率90%以上を目指し、レベルの高い研修で研鑽を積む。	A	・通級指導委員会を毎月開催し、授業内容や生徒の変化を共有できた。職員向け研修会を5月に開催し、自立活動の基礎についてのアンケートで9割以上の職員の理解度が得られた。 ・県内外で3回の事例発表を行った。校外からの訪問は8件あり、自立活動についての紹介や授業参観をしていただいた。 ・目標とした会議に全参加した。次年度の自立活動を希望したり「この授業を選択して良かった」と答えた生徒は、9割を超えた。	・生徒理解・特性理解を進め、教育活動を充実させるための取組の組織化を強化していく。 ・各種研修等を活用し、専門性を身につけ自立活動を担当できる職員を最低1名は増やす。

④豊かな心を育み心身の健康を増進するための支援体制の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・自己肯定感を高め、自他を尊重する態度の育成	・生徒にとって学校が安心・安全な場所として認識され、自分のことが好きになるような働きかけをする。	・生徒・教師間の信頼関係を築くよう努める。 ・客観的な検査指標であるQ-Uを用いて自分のことを理解するためのフードバックする時間を設ける。 ・Q-Uを利用して、生徒理解を進め、校内連携や支援体制の充実を行う。	B	・教師との関係を示すアンケート結果では、「悩みを相談できる」「気軽に話ができる」の項目は嬉しい傾向を示していた。 ・2年生で、Q-Uを実施し、クラスにおける生徒の関係性や困り感の傾向を把握し、声かけの工夫やグループ分けの際の参考とした。課題としては、集団への働きかけが十分でなかった。	・学年やクラスにおいての有用感を高め、自己肯定感につながるような集団への働きかけを工夫していく必要がある。
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめ問題の未然防止 ・いじめ問題への組織的な対応力の確立と実践	・生徒が周囲の人間と信頼できる関係を持ち、規律正しい態度で学校生活に参加・活動できるようにするとともに、いじめに向かわない態度を育成するよう授業づくりや集団作りを行う。 ・「学校いじめ対策委員会」を設置し、事業への対応を的確且つ迅速に行う。	・学校生活アンケートを年3回実施し、いじめの未然防止及び早期発見に繋げる。 ・面談週間を設け、担任による個人面談を行う。気になる事業に対しては学校関係者、保護者、スクールカウンセラー等と情報を共有する。 ・PTA総会や集会などを通じていじめの重大さや防止の重要性などについて理解を深めるよう啓発活動を行う。	A	・学校生活アンケートは年3回実施した。担任や学年のきめ細かいフォローもあり、早期解決につながった事例も多かった。 ・面談週間を予定どおり実施し、生徒との信頼関係を構築する一助とすることができた。 ・入学式後に新入生の保護者に対して本校のいじめに対する姿勢を伝えた。また、学年集会などで生徒に対して、お互いを尊重することの大切さを伝えた。	・学校生活アンケートを年3回実施し、いじめの未然防止及び早期発見に繋げる。

⑤保護者や地域、中学校との連携による広く共感と信頼を得られる学校作りの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	・望ましい生活習慣の形成	・自己の健康に気を配り、体調管理ができる生徒を育てる。 ・ゴミの適切な処理に留意させ、校内美化を推進する。 ・食育を推進し、朝食摂取率が75%を超えるようにする。	・毎朝の健康調査を通して、自己の体調の変化を把握できるようにする。 ・ゴミの持ち帰りに関するポスター作りや声掛けを行う。 ・朝食アンケートを実施する。また、学校通信などを利用して朝食をとることの意義を呼びかける。	A	・毎朝の健康調査は、各担任の先生方のご協力により確実に実施することができた。 ・掃除用具の使い方を含め、生徒への意識付けを行った。 ・今年度は、朝食アンケートが実施できなかったため、来年度は1学期の内に行う。また、食改協との連携を早めに取り、みそ汁会の実施に向け準備したい。	・健康調査はこのまま継続したい。
学校運営	○広報活動	・魅力的な情報の発信 ・志願者、保護者の学校理解	・HOT通信の充実と刷新を図る。 ・学校HPの充実と月1回の更新を行う。 ・学校説明会・体験入学の参加者を前年度より10%増やす。 ・PTA活動への保護者参加率を5%向上させる。	・HOT通信2回発行の維持と情報の収集を行う。 ・学校説明会の広報に努め、保護者・生徒の知りた情報発信する。 ・体験入学では、学校設定科目を中心とした特色ある授業の体験で本校理解につなげる。 ・PTA行事の保護者への周知に努め、学校・保護者・地域と連携しながら学校活性化を推進する。	A	・HOT通信については、生徒の活動を多岐にわたり掲載できた。また、学校HPも写真の刷新を行い、より見やすいHPとなった。 ・学校説明会は、前年比5%増となったが、体験入学は、台風のため、オープンキャンパスが一日のみの開催となったため、20%減となった。 ・PTA行事については、今年度実施した7つの活動のべ参加人数は120人と参加率は11%と例年並みとなった。	・HOT通信、学校HPについては、より充実したものになるよう情報の収集に努める。 ・学校説明会では、中学生、保護者がより知りた情報発信できるようにする。 ・PTA行事により多くの人が参加できるようにする見直しと参加率向上の工夫が必要となる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員の業務改善の推進 ・年次休暇の積極的な取得推進	・学年及び校務分掌業務の2割削減を達成する。 ・年次休暇の取得率向上を目指し、10日以上取得を達成する。	・職員会議や朝礼等を利用して、「働き方改革」の周知徹底し、改革に対する教職員の意識の醸成を図る。 ・学年・校務分掌ごとに業務の洗い出しと見直しを実施することにより、全体で2割以上の業務や行事の削減を行う。 ・業務の標準化を推進することにより、年休が取得し易い職場環境の整備を行う。	B	・教職員の時間外自発勤務(4月～1月)の平均は、36.22時間であり、目標である40時間未満を達成することができた。 ・週休日の出張については、積極的な振替休日の取得を奨励し、取得率の向上に繋がった。 ・働き方改革の推進の一環として、業務改善調査を実施し、勤務状況の把握に努めることができた。	・時間外自発勤務の削減については、教職員個人個人の勤務実態の正確な把握に努め、必要な場合は業務量の調整を図っていく。 ・学校行事等の一層の削減を推進することで、効果的な教育活動の継続のための時間の確保に努めていく。 ・教職員のメンタルヘルスに留意することで、教職員の業務に対する意欲の向上に繋げていくことで学校全体の活性化を推進していく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組
 ・新高等学校学習指導要領の施行を踏まえ、魅力ある教育課程の編成に取り組んだ。次年度以降は、日常の授業改善の更なる創意・工夫に努めていく。
 ・普通科高等学校での特別支援教育に対するニーズの高まりを踏まえ、生徒理解・特性理解を更に推し進め、教職員全体の専門性の向上に取り組んでいく。
 ・広報活動、体験入学、授業研究会の質的向上に努め、幅広く学校公開を行いながら地域学校に信頼される学校づくりを進めていく。
 ・学校行事等の精選に努めながら働き方改革を進め、効果的な教育活動の実践及び継続を推進していく。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目